

かたびらの富士

「まあまあ火におあたり、夜は冷えてくるで……時にどちらからみえたかな、なにっ、房州の千光山からか、あそこは不思議法師が開かれた。親爺はものしりだと……知らなくてどうする。こうして街道に家をもつておれば、旅の人を泊めるのは法師、お前が始めてではないわ、あしたの晩もまたお前のような坊さんをとめるかもわからない。宿銭はいらんそのかわりぢや、仏様のお話をたんまり聞かせなさい、宿銭の代りになあ。わしは旅の人を泊めるのが大好きぢや、そのかわり、旅の人から諸国の出来事を聴く、宿銭をもらうつもりで、それになあ、このかたびらの里から鎌倉まではもうわずかな道のり、みたところ、法師、お前は脚が達者そうぢや、一刻もあれば鎌倉までは大丈夫、安心して泊まんない、明日の朝ゆつくり立つても昼前には鎌倉へつくぢやろう、して何処の寺にゆかれる……」。

何に何にっ、どこの寺へ行くかわからんと、これは驚いた。死人ですら、行く先きは阿弥陀さまと近頃はとんときまっておる世の中に、生きておる坊さんが、行く先きがわからんとはこれは

これは驚いた。わしのところは鎌倉へのいわば入り口、だから宿を借りる人は大抵が、このわしに鎌倉の様子を訊き、尋ね場所をきくんぢやが、お前さんのように行く先きがわからん人は始めて泊めた。近頃面白いぞ。して年齢はおいくつぢや……。

十八か、ほう、これは余り大きいので二十五、六才にみた。いやいや年の若い時は、ふけてみえるのがよいのぢや、行く先の寺がわからんとは、何しに鎌倉へゆかれる……：：：仏教の研究に鎌倉へ、これはまた驚いた。今更仏教を研究なさつてどうするつもりぢや、からだは大きいが考えは、まだまだ若いとこの親爺はみたぞ、わしはなあ人の話をきくのが大好物、人を泊めては宿銭がわりに話をきく、それが楽しみでいろいろな人の宿をするから、こうやって炉辺の火をかこんで、幾人かの坊様の話も拝聴したで、仏様の話も多少は心得ておるつもりぢや、なあご坊、今鎌倉でもつばらの流行は浄土の教え、ありがたい阿弥陀さまの教えじや、これには研究なぞというものはいらんという話だぞ。仏教の研究なぞは仏さまがとつくの昔に御親切にも充分して下さつておるのじやよ。だからもう研究なぞしておるときではないわ。それに短い命で、沢山ある経文を全部読むだけでも命か一つや二つじゃ足りっこはない。やめなさい、なまじつかな研究なら。ええ、それよりはなあ、いま流行の浄土宗に身を入れなさい。そして執権職にとりいることぢやよ、日本国中に寺という寺は多数あるが、お坊さんの建てた寺は一軒もない、みなお上がたててくれた寺ばかりでないか。此処をよく考えてみなさい、この方面の研究が先ず肝要。いま鎌

倉の執権北条泰時殿は大の仏教信者ぢや、善光寺にどえらい五重塔を供養するかと思えば、一切經五千卷を園城寺に奉納したり、近く鎌倉では、佐介ヶ谷に蓮華寺を創立して法然上人の嫡孫とかをお迎えするとのごうせいな話ではないか、幕府も鎌倉に都を開いても、まだまだこれからじや、寺も益々建てて都の威厳をつけようと思っておるわい、お上にとりいることが肝要……。えっ、寺など建ててつもりは毛頭ない、これはまた驚ろいた、では、なんのためにお坊さんになられた……。なんとなんと

「仏にならんと思うばかりなり……」

仏にならんと思うばかり今生の祈りなし」と言われるか、これはまた一段と驚くよりあきればてた。年寄りだと思つて、余りなぶりなさるな。誰が仏さまになろうと思つて出家した坊さんかおるものか、坊主になるのは、せつぱつまつての借錢のがれか、よくつて罪ほろぼしかのいづれかだけよ。それが仏になろうのが今生の大願と本気で言われるか、ご坊気が違つてはおちんかいな。仏様はたつた一人しかおらんぞ、阿弥陀さまじや、これが皆を救つてくれるのじや、何人もの人を殺ろし壇之浦ではご幼帝に弓を引いた熊谷直実殿でさえ、一遍の弥陀の称号を唱えるだけで極楽往生疑いなしと法然上人より印可を受けたというではないか。仏法の極意は後生の往生を願うこと、仏になるうなぞとは仏様に対して全く申訳けがない、もつたないことを言うものではないぞ法師よ。よくきけ、此処は房州の片

田舎とは違う。鎌倉の外にいてもこの位のことは知っておる。ましてや、鎌倉の人々もつとつと利発だ、仏になろうと思つて坊さまになつたなぞうっかり口外なさるなよ。それより、鎌倉はまだまだ草創の地、うまくとりたてられて、寺の一軒でも建立しよう、こう発願して明朝出發しなさい。みたところ、あつばれな法師じゃ、第一押出しがよいわ。ははは……私も禅をやつておつたが、近頃では阿弥陀さまばかり、あまり婆々がやかましく言うので、この間鎌倉の小町で、阿弥陀さまの絵像を買つてきたが、お釈迦さまの木像は今の子供達の玩具になりさがつておるわ、これも末法とか言うて、お釈迦さまのご利益がなくなつた時が来たそう。その道のお坊さんが言うのじゃから本当のことだろう。それになあ本当にお釈迦さまのご利益があるものならば、人がそうはさせせんわ、玩具にさせたこの爺々や婆々の眼でもつぶれる筈なのにそんなこともない……。

いくつも宗旨があるのを不思議だと思わぬかと言われるか、お坊さまが自分の得手不得手でそれを興行するからよ。禅が得手なら禅宗の興行、浄土が得手なら浄土宗で興行という具合になあ、たとえばさあ十三力国にまたがる富士山じゃ、武州の富士もあれば相州の富士もある、此処かたびらの里からみれば、かたびらの富士と人は言う、富士は一つでもみる人の場所それぞれに名が違ふじやないか、仏はたつた一つじゃがみる所が違ふからじゃ、どうじゃ納得か、法師、名前はまだきかなかつたが、何んと言われる……蓮長か……近頃面白い法師じゃ、わしは人の話

をきくのが大好物、もっと火にあたれ、まだ早い、ゆつくり語りなさい」

